

和光大学 同窓会

和光大学同窓会報 vol.3

2016年10月

ロゴデザイン：元和光大学芸術学科教授 柘 光紘

CONTENTS

・学長・会長あいさつ
・新理事長あいさつ

・同窓会会員の活躍
・大学の今

・同窓会の活動
・インフォメーション



和光大学 学長
伊東 達夫
いとう たつお

同窓会の掲示板

同窓会の皆様、唐突ですが、同窓会事務局がA棟4階の学長室の斜め前にあることはご存じですね。学長室前は、学生はほとんど通らないのですが、「教職支援講座」のお知らせが、ドアに貼ってありました。新学期に入ってもなくて、4年生が本格的に就職活動に動いている時期でしたので、教員志望の学生にとっては、先輩の経験談やアドバイスは大変有意義なことであると思っていました。後日談で、一名の参加があったようです。

発足してまもなくの頃、このような企画をやりたいという話を同窓会役員の方から伺ったことがあります。その時は同窓会の活動が動き出したばかりで、学内部局との意志疎通にご苦労なさっているようでしたが、やっと目に見える形で動き出し安心しました。

同窓会の掲示板がA棟2階のオープンスペースにありますので覗いてみてください。新しい和光の一コマが見られると思います。

お手伝い、させてください。

和光大学同窓会では、現役学生の学費を援助する学生救済募金を行っています。

お金の問題だけでなく、困ったことがあったら、同窓会にも相談してみてください。たくさんの和光の先輩たちが、さまざまな分野で活躍されています。同窓会のネットワークで、あなたの問題が解決の方向に進んでいくかもしれません。

ひとりで悩まないで、あなたのなかでもやもやしていることを話してみてください。A棟のなかにある同窓会事務局に、ぜひ声をかけてください。まず、いっしょに考えていきませんか。

私たち同窓会は、人生の先輩として、学生や卒業生の困りごとや悩みごとを解決するためのお手伝いをしたいと考えています。



和光大学同窓会 会長
打越 雅祥 (52H)
うちこし まさよし

同窓会費・寄付・募金 納入者一覧・ご協力ありがとうございました。

2015.9/1 ~ 2016.8/31

※太字は永年会費相当額 (2万円) 納入者 (敬称略)

101名

同窓会費の納入をお願いします。

- ▶永年会費2万円 分割納入可
- ▶郵便振替 00140-7-449809 和光大学同窓会

朝倉和博 (45A) 新居草太 (03R) 生澤慎太郎 (13B) 池川昭宏 (49H) 池川友一 (03D) 池川陽子 (50H) 池田英子 (43H) 池野菜穂子 (98A) 石谷エリ子 (48L) 石谷潤也 (48L) 石谷雄介 (99L) 一ノ瀬民子 (53L) 井出好紀 (98B) 稲田冴子 (41L) 井野翔太 (14T) 井之脇恭思 (12U) 岩中雅司 (13U) 植木立介 (52L) 遠藤千恵 (49A) 大垣泰三 (42H 故人) 小川瑞穂 (16E) 大久保聡 (57E) 大野詩織 (16P) 大橋康男 (50L) 太田素子 (現教員) 大山真奈 (15T) 岡新一 (12E) 岡安仁美 (旧教員) 荻無里寿美子 (53L) 小澤和典 (42E) 小田雅枝 (42L) 落合正行 (旧職員) 掛貝和巳 (15B) 柏木佑介 (16B) 勝山久美子 (48L) 金子知佐子 (63A) 神谷竜一 (59L) 上水流慧 (15U) 亀井裕希 (16P) 菅野詠子 (12U) 黒井一智 (59E) 小谷幸正 (48H) 小西温子 (44L) 小林恵美子 (12P) 齋藤泰史 (43E) 坂本美緒 (12U) 佐久間光雄 (52E) 佐々木重人 (59E) 佐田和子 (45L) 佐藤翔 (13B) 佐藤洋 (43H) 塩田富美男 (13U) 鹿間麻理 (54H) 篠崎牧子 (09P) 篠原律子 (47A) 清水映里 (16W) 清水遼 (10T) 城田明 (44L) 杉原洋輔 (16B) 杉山緑 (49A) 鈴木心平 (11E) 鈴木美千代 (53A) 瀬尾光 (16W) 瀬川三枝子 (54H) 高橋玄道 (54A) 千葉大誉 (15T) 塚田暉希 (16P) 遠山幸祐 (16P) 戸張高志 (52E) 鳥居康子 (49L) 中島保 (45E) 中島博子 (45H) 根岸和恵 (04Z) 根本広子 (57H) 野月優佑 (12B) 芳賀 (旧姓戸田) 敦子 (96D) 長谷川莉紗 (16B) 馬場美文 (41A) 原島信幸 (46E) 平井勝 (55L) 藤本俊子 (41L) 星野史織 (14G) 細谷昂 (15W) 堀諒人 (16T) 堀越武 (46E) 町田純一 (16B) 松崎正人 (56E) 松本幸治 (45E) 丸子千尋 (09G) 丸山良子 (51L) 向井祥悟 (13P) 森本裕和 (46H) 柳沢泰子 (54H) 山口和子 (04G) 山田かおり (13B) 山田達俊 (15G) 幸杏理彩 (16G) 横溝大輔 (09G) 吉澤恭子 (45L) 渡邊香織 (99A) 渡部光雄 (42A)

注： A、G：芸術学科 B：経営・経営メディア学科 D：人間発達学科 E：経済学科 H：人間関係学科 L：文学科 X：表現文化学科 M：大学院 P：心理教育学科
T：総合文化学科 U：現代社会学科 W：身体環境共生学科

今こそ必要な 和光の自由主義教育



和光学園理事長
古関 彰一
こせき しょういち

昨年一〇月に和光学園の理事長をお引き受けいたしました古関彰一と申します。顧みますと、私は一九八二年から九年間、和光大学経済学部の教員をしておりました。今回、この職をお引き受けすることになりましたのも、そんな経歴によるものと思っております。

それは、短い時間でしたが、忘れがたい教職員、学生との出会いを思い出します。なかでも、身体の障害を持つ学生や在日韓国・朝鮮人の学生との出会いは、私が和光に来る前後の大学ではまったく経験したことのないことでしたから、戸惑いながらもとても新鮮でした。障懇での議論がきっかけで「手話・点字とコミュニケーション」と言ったりと思いますが、授業を始めることになったり、たとえば外国人の指紋押捺が問題になり、外国籍の研究者・学生と一緒に闘ったり、当時は「なんでこんな面倒くさいことばかりが多い大学なんだ」と思いつつ、顧みれば楽しく、みなさんに支えられて多くのことを学び、自分探しをしていたことを思い出します。

和光の魅力とは、一口で言えば自由主義教育を育んできた伝統ということだと思っています。ですから何をすることも時間がかかるのです。その点は、いまの日本の主流である効率主義の学校行政の対極にあるように思えます。

しかも、「自由主義」という「主義」は、とても分かりにくくて、なにしろ価値の多様性を貴ぶ考え方ですから、単なる「自由」ではないのですから、たとえばカリキュラムもない「自由学校」と間違えられたり、わが国を代表する政党の自由民主党は、英語圏でLDPと言えば誰でも知って

いるように、リベラル・デモクラティック・パティと、リベラル（自由主義）なのです。しかも最近のネットなどで、「リベラル左翼」などと、リベラルが左翼呼ばわりされていますから（自民党が左翼？）、自由主義はますます誤解されがちです。

自由主義は、異なる価値の多様性を認め合い、それを共有する考え方ですから、「なんでもできる自由」などとは実は縁遠く、さまざまな価値の大切さを知らない自由主義とは言えないわけで、それはまさに昨今のように激変する時代には、いわゆる「主義」ではない「民主主義」（デモクラシー）はイズムではないのです（と一体となつて、その意義を発揮しようとする主義ですが、それだけに多くの知識が求められているとも言えそうに感じます）。

私は、憲法制定過程などの憲政史を専門とし、大学で憲法を講じてきましたが、一概に「民主主義国」と言っても、ヨーロッパ、なかでも北欧を中心に議会主義とは言いながらも提出された請願署名に議会が回答することは当たり前ですが、請願数が一定程度を超えると代表が議会に出席して請願内容について発言できるなどの改革が進み、熟議の民主主義が進んでいて、同じ議会主義とはいえ、一回の選挙だけで、請願は受け付けるだけの民主主義とは成熟度が段違いな感じを受けます。

現代とは、視野（旧来の専門とともにそれを超えた視野と多様な価値（普遍性）を共有できる知性が求められる時代だといつづく感じます。それはまた、大学が専門学校化するなかで、本来は、

それとは真逆な研究が求められているということでしょうか。

そんなことを考えていましたら、創立者の梅根悟先生が「専門性と総合性」ということを言われていたことを思い出します。とはいえ、和光学園は今や最大の財政危機状態ですが、あらためて自由主義教育の価値を再認識し、財政危機にめげず、和光教育がつぎの世代に受け継がれるように努力したいと思っています。

和光大学に 「OB・九条の会」 発足

和光大学OB・九条の会は、昨年発足した会です。和光大学で学びつつ、生協運動や自治活動、サークル活動などを経験した学生や、教職員として働いた人たちが、全国に広がっている「九条の会」の趣旨に賛同し、あわせて和光学園と大学の発展を願って、発足した会です。この会は、世界に誇るべき日本国憲法の原則である「国民主権、平和主義、



和光大学での署名活動

基本的人権の尊重」の精神がないがしろにされつつある現状を憂い、憲法の精神を擁護することを基本としている和光学園と和光大学の発展を願い、全国に散らばっている卒業生と教職員の交流を目的にしています。

会の発足後は「九条の会」が呼びかけた「日本国憲法の九条を守る集会」などに多くの会員が参加しています。大学当局の了解を得て大学構内で「戦争法の廃止を求める2000万人署名」も行いました。また、会員の経験交流と憲法の現状を知るべく「学習会」を開催し、「会報」を定期的に発行して会員間の交流を図っています。

今、改憲の動きが急です。和光学園は戦前の日本が軍国主義化していく中で、自由な教育の実現を目指して創設された学園であり、その精神を実現するために大学は創設されたと私たちは理解しています。

日本国憲法が改悪されれば、学園と大学も設立の精神が奪われかねません。会は改憲の動きの阻止と、学園と大学の自由を守るために活動を進めていきます。改憲阻止の各種の集会に会員が「のぼり旗」を立てて参加していますので、会の趣旨に賛同される方は集会参加の折に会員に声をかけ、一人でも多くの方が参加されることを期待しています。

(和光大学OB・九条の会事務局)

古関理事長の著書、 おすすめ3冊

- 「日本国憲法の誕生」
岩波現代文庫（2009年）
- 「安全保障とは何か」
岩波書店（2013年）
- 「平和憲法の深層」
ちくま新書（2015年）

同窓会会員の
活躍

鎌倉観光タクシーで、鎌倉観光はいかが

鎌倉でタクシー乗務員をされている吉村景理さん（52L）は、勤務先のタクシー会社で鎌倉観光タクシーガイドの認定を受け、タクシーでの鎌倉観光をしています。吉村さんお勧めの寺を回ってもらいました。

4月6日、まずまずのお花見日和。約束の10時ぴったりに鎌倉駅西口に滑り込んできた吉村さんのタクシーに乗って約2時間の鎌倉観光にいざ出発。

最初は、扇ガ谷の海蔵寺。臨済宗建長寺派の古刹です。静かな住宅地の奥まったところ。シャガの花に囲まれたひなびた門をくぐると、境内には大きな海棠の木が濃いピンクのかわいらしい花をいっぱいにつけていました。品よく咲くシャクナゲも、周囲の新緑と調和してゆったりとした気分。すぐ近くには水を湛えた16の穴（井戸）がある不思議な洞窟「十六ノ井」もありました。次は、北鎌倉の建長寺の向かい側にある円応寺。本尊は鎌倉時代の仏師運慶の手になる閻魔大王坐像。その閻魔様を「十王」が囲んでいます。「十王」というのは亡者が冥界で取り調べを受ける十人の王様のことだそうです。「十王」が調べる亡者の生前の行いは、邪淫や、我儘、怠惰、など、生きている私たちにリアルなことだらけ。大きく目を向いた顔は怖いけれども、どこかユーモラスな王様たちに囲まれていると、妙な安心感を感じて、いつまでも、王様たちと一緒にいたい気分になりました。最後は目の前の建長寺へ。三門への道は桜が満開で見事でした。奥の方丈に上がり、大覚禅師の手になるという庭園を見たら、もうお昼。

北鎌倉から海沿いの道を走り、江ノ電稲村ヶ崎駅に近い国道

沿いのしらす料理屋「いけだ丸」で、しらす、しらす干し、しらすのかき揚げと、しらす三味のお昼をいただいて鎌倉駅西口に戻り、終了。

天気にも恵まれ、2時間はあっという間でした。今回はガイドの吉村さんおまかせコースでしたが、行きたい場所を伝えるとうまく組み合わせて回ってもらえ、乗務員でもあるガイドさんは、それぞれの場所や寺のガイドもしてくれます。離れた場所でも短時間でいけるので時間の節約になります

し、鎌倉は山が迫っていて上り下りが多いので、足腰に自信がない場合にも強い味方です。

料金は30分¥ 2,990。2時間で¥ 11,960です。利用してみたい方はこちらへ。

電話0467-31-0101

KGグループ配車センター
乗務員は吉村景理さんをご指名下さい。

すてきな観光をお約束します。

行ってきました!



左から、吉村さん（52L）村上山さん（48E）柳沢（54H）小泉さん（41H）



海蔵寺の海棠



しらす定食

同窓会会員の活動は、他にも同窓会HPで紹介しています。和光大学同窓会 → 広場 → 同窓生インタビュー

今思えば夢のような4年間だった

山川 仁（43A・芸術学科）

道にそう畑の向こうには小田急線が走り、もう片側には川が流れるその道を歩いて、和光大学に通った事は、今になって思い出せば夢のような楽しい時を過ごしたのだなと感じます。

本当に自分がしたい事をしてきた学生時代でした。芸術学科の岡田哲郎先生、斎藤寿一先生、豊田敦先生の講義が楽しかったし、大変お世話になりました。小野雄一先生の講義は絶好調になるとどもりだすので、どもりでしたらよく聞くようにしたも

のです。また、デッサン室の中に小さな小屋を作って「パー紫」と名づけ、自分達の居場所にしてしまいました。確か叱られはしましたがその存在は赦され、その後、剣持吟先生が「この部屋を貸せよ」と言って授業を始めてしまった事もありました。

学友達とは、今でも深い繋がりを持ち、何時でもそばに居てくれているような気がしています。当時の我々の会話は、まる



で喧嘩でもしてるように見えたらしいのですが、実際には素晴らしく爽やかなものだったのです。

思い切り話し、思い切り表現し、お互いが認め合っていることに快感のようなものを感じていました。

マドンナもいましたね、ライバルもいました。しかし、その仲間のうちの2人はもうこの世には居らず、彼らを思い出す度に、語り口や笑い声が聞こえて来るような気がしています。

卒業後は、絵描きになりたかったものの、何しろ定職につかなければと思い、運良くある会社に就職する事ができました。社会人になって、和光大学のような楽しさはなかなか無かったのですが、段々素晴らしい先輩たちが居る事も分かり、大変多くの事を学び、経験する事が出来ました。

定年前の55歳で退職し、現在はおもちゃ屋とカフェの店「おもちゃだいすき&アナトールカフェ」という店を鎌倉でやっています。

和光大学を卒業したという事に誇りを持っています。それは今この歳になって、あの4年間のような素晴らしい時を過ごした事は、その後一度も無かったからだと思います。

同窓会会員の
活躍

児文研50年のつどい 石原邦彦(45H)

5月15日(日)の午後、学内で「和光大学児童文化研究会50周年記念式典」が開催され、同窓会を代表して参加してきました。会場の入り口には古い写真や歳月を経た歌集やファイルが展示されていて、それを囲んで談笑している姿があり、会場には児文研を創設した第1期生から現役の学生まで85名が集まり、和気あいあいとした雰囲気につつまれていました。



会は梅原利夫教授の「大学創立と同時に1966年にできたサークルが50年も続いていることは快挙と言ってもいい。私も学生時代にセツルメント活動に関わっていたし、児文研に属していたゼミの卒業生もたくさんいるので、児文研の活動には親近感を覚える」という挨拶から始まりました。

その次に同窓会が指名され「このようにたくさんのOB、OG、現役の方々が一堂に会するということが画期的なことであり、感動的でもある。この50年間に連なっている方々の児文研への想いと熱意に同窓会として心からの敬意を表したい」と挨拶し、同窓会の事業を説明して会費の振り込みもお願いしました。

次いで、児文研の創設者メンバーの一人である折原輝雄さん(41H、元教員)がマイクの前に立ち、設立当初のエピソードを話されました。折原さんはけん玉と腹話術の達人でもあり、腹話術の人形がけん玉をするという妙技も披露されました。この技でフジテレビに



出演したこともあるそうです。小さい子も親と一緒に参加していましたが、折原さんの名人技に目を見張っていました。

現役のメンバー(現在17名在籍)による最近の児文研活動をスクリーンに映しての紹介した後、全参加者が自己紹介をしました。それぞれの発言からは、児文研の活動がその後の人生に大きな影響を与えていることを痛感しました。また、「大学時代に戻りたい」「駅前の変貌に驚いた」「歴史があるサークルだということに痛感した」などという声もありました。

その後は、児文研らしくゲームを交えながらお互いの交流を深めました。終始笑顔と笑い声が絶えない、楽しいひとときでした。児文研に限らず今後もこのようなつどいが企画され、さまざまな交流が行われることを願ってやみません。

駒場・和楽庵へどうぞ 前田令夫(41H)

入学以来半世紀。年金生活に入ったことをきっかけに、お茶席を開きました。渋谷にほど近い駒場で、和光の「和」、平和の「和」の和楽庵という名前です。お茶を飲みたいと思ってもどこに行けばよいかわからない。都合のよい時に行けない。そういう方のために気軽に飲める席として開席しました。

信長、秀吉の殺伐とした時代に、「和敬清寂」をモットーに茶道は大成しました。なぜ激しい争いの世の中で、絶対平和ともいえる空間をつくりだすことができたのか?、など、様々な疑問はいまだに答えは出ていません。でも、お客様を迎えるため、どう席に作り上げるかあれこれ考え、露地、席を整える準備をしていると、だんだんその疑問に対するある程度の答えが見つかりそうな手ごたえを感じています。

駒場・和楽庵は、小堀遠州流の点前でお茶をさしあげます。

小堀遠州は、織部に師事し、三代将軍家光の茶道指南として武家茶を確立しました。珠光、紹鷗、利休と続いた「茶禅一味」の侘茶をもとに、安定した世の中で大名をはじめとした人々をもてなすお茶が作られていったのです。

お客様は現在、90%以上が海外から見えた方です。オリンピックを控え、外国からの観光客を当て込んで、日本文化を売り込む様々なアクティビティ(体験活動)ができていますが、果たして本当に日本文化といえるか疑わしい「なんちゃって日本」がいっぱいです。本当の日本文化がギュッと詰まったお茶の世界を、ぜひ楽しんでもらいたと思います。ちなみに、和光卒業生は、大幅値引きいたします。チケット制教室始めました。「駒場・和楽庵」でホームページ検索できます。ご覧ください。



「アジアから学ぶ “よい”暮らし、“よい”人生」

編者は、お二人とも現和光大学教授。編者を含め、9人がアジア体験とそれを経ての自分を真摯に語っている。欧米中心の生活や、価値観について、ふっと立ち止まって考えるきっかけを作ってくれる優しい本。大橋奈緒美さん(05G)も執筆しています。



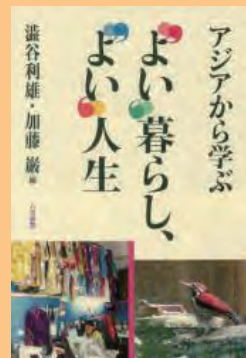
「ミャンマーの人々」



「インレー湖」



「こどもたち」※いずれも大橋奈緒美(05G)



「アジアから学ぶ “よい”暮らし “よい”人生」 渋谷利雄・加藤巖編 8月書館



同窓会会員の活動は、このほかにも同窓会ホームページで紹介しています。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.wako-daigaku-dousoukai.info/>

三橋修さんを偲ぶ会

2016年6月5日和光大学E-101教室にて

1969年から、2007年まで和光大学で講義をされ、2001年から2005年まで学長も務め、2015年12月29日に79歳で逝去された三橋修先生を偲ぶ会が有志の方によって開かれました。

緑の木に囲まれた大きな白いキャンドルの群れの中に浮かび上がる三橋先生の生前の姿を囲んで、三橋先生と大学の後輩だったという菅孝行先生、高校の後輩だった篠原隆治先生、和光大学創学当時の学生から90年代に入学した学生、和光大学の学生ではなかったが、縁あって三橋ゼミに参加したという人も含めて50名ほどが、黒人差別問題から出発して、在日朝鮮人差別問題、部落差別問題と、「差別」をテーマにした三橋先生の研究と人柄を語り合いました。

「和光大学を卒業した」というより、「三橋ゼミを卒業した」という気持ちの方が強いという卒業生は、卒業後もゼミに参加し続けたとのこと。「特攻任侠自衛隊」という映画に三橋先生がやくざの役で出たというエピソード。90年代の入学生は、三橋先生との出会いを、若者の発言を最後まで黙って聞いてくれる大人に初めて出会ってカルチャーショックを受けたと表現。多くのゼミ生にとっては、じっくりとゼミ生の発言を聞いて指導してくれた三橋先生が印象に残っているようでした。間違っている、異なっている、他者の意見をきちんと聞き、理解する努力を怠らず、亡くなる直前まで、読書会を主体とした「夜ゼミ」を主催し、卒業生に限らず、垣根を設けずに誰とでも、気軽に学び合おうとした三橋先生の姿は、和光大学の在り方とも深く関わっているように思いました。

ご冥福をお祈りします。

なお、偲ぶ会の実行委員は、村松亘さん(51H)、松井信之さん(52H)、種石進さん(49H)、三橋先生ご子息三橋航さんでした。

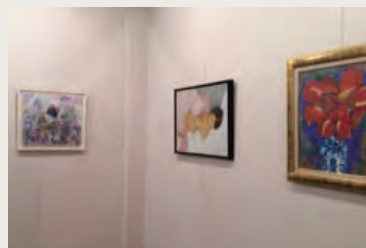


ザ・ドッグ・イン・ザ・バグ 木原大輔(05G)

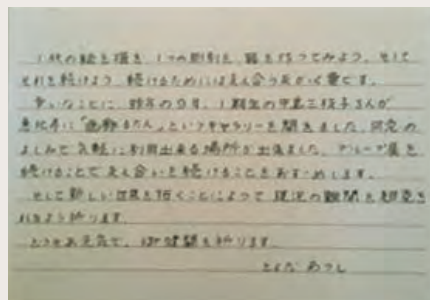
第16回「元展(げんでん)」

2016年8月1日から6日まで、銀座の画廊「るたん」で開催されました。

「元展」は豊田敦先生の呼びかけで始まった芸術学科卒業生によるグループ展で、16回を数えます。今年も植田裕子さん、木場美和子さん、斉藤正博さん、佐藤創一さん、遠山正さん、藤倉春日さん、安河内雄さん、山梨且二さん、吉岡憲法さん、が力のこもった作品を展示しました。



「るたん」での展覧会



豊田先生からのメッセージ

三橋先生 生前の軌跡

- 一九六六年 東京大学文学部社会文化学専攻 日本学専攻(ゼミ)で三橋先生と出会う
- 一九六七年 和光大学文学部助教授
- 一九七〇年 和光大学文学部助教授
- 一九七一年 和光大学文学部助教授
- 一九七二年 和光大学文学部助教授
- 一九七三年 和光大学文学部助教授
- 一九七四年 和光大学文学部助教授
- 一九七五年 和光大学文学部助教授
- 一九七六年 和光大学文学部助教授
- 一九七七年 和光大学文学部助教授
- 一九七八年 和光大学文学部助教授
- 一九七九年 和光大学文学部助教授
- 一九八〇年 和光大学文学部助教授
- 一九八一年 和光大学文学部助教授
- 一九八二年 和光大学文学部助教授
- 一九八三年 和光大学文学部助教授
- 一九八四年 和光大学文学部助教授
- 一九八五年 和光大学文学部助教授
- 一九八六年 和光大学文学部助教授
- 一九八七年 和光大学文学部助教授
- 一九八八年 和光大学文学部助教授
- 一九八九年 和光大学文学部助教授
- 一九九〇年 和光大学文学部助教授
- 一九九一年 和光大学文学部助教授
- 一九九二年 和光大学文学部助教授
- 一九九三年 和光大学文学部助教授
- 一九九四年 和光大学文学部助教授
- 一九九五年 和光大学文学部助教授
- 一九九六年 和光大学文学部助教授
- 一九九七年 和光大学文学部助教授
- 一九九八年 和光大学文学部助教授
- 一九九九年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇〇年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇一年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇二年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇三年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇四年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇五年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇六年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇七年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇八年 和光大学文学部助教授
- 二〇〇九年 和光大学文学部助教授
- 二〇一〇年 和光大学文学部助教授
- 二〇一一年 和光大学文学部助教授
- 二〇一二年 和光大学文学部助教授
- 二〇一三年 和光大学文学部助教授
- 二〇一四年 和光大学文学部助教授
- 二〇一五年 和光大学文学部助教授
- 二〇一六年 和光大学文学部助教授

祖父江先生 著作集紹介



祖父江昭二先生

今年(2016年)3月、故・祖父江昭二先生の著作集「二〇世紀文学としての『プロレタリア文学』——さまざまな経路から——」(エール出版社 学術部)を刊行しましたので、紹介させていただきます。本書は先生の書齋に残されたメモをもとに編集・入力を進めてきたもので、「原資料に当たらない発言を自戒し、その資料収集のためまわり道を強いられ」た先生の4冊目の著作集となります。緻密に積み上げられていく論理展開の方法は、抽象化された論理の横行するこの時代にますます学ぶべき必要のあるものと考えます。研究書で少々高価(6,000円)なのですが、どうぞこの機会に、先生の著作に触れ、先生の声を思い起こしていただければと思います。本書は書店からも注文できますが、直接、刊行委員会(清水)に連絡下されば、お届けいたします。ご希望の方は葉書・FAX・メール等でお知らせください。



「二〇世紀文学としての『プロレタリア文学』」(エール出版社 学術部)

〔問合せ先〕〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田7-9-4 清水博司(46L)(祖父江昭二著作集刊行委員会代表)

TEL・FAX / 044-922-5923 Email / ii6h-smz@asahi-net.or.jp

「梅原ゼミ出身者・教育関係者のつどい2016」 持田絹子 (94E)



東京は猛暑であった8月6日(土)、7人の和光大学卒業生が梅原先生を囲んで、有意義な時間を過ごしました。この会は2012年と2014年にも開催されたもので、梅原ゼミ出身者で、教育関係の仕事についている人が集まり、学びあいの場をつくらうという主旨のもと、61Hの菅間さんが呼びかけてはじまったものです。今回は梅原ゼミ出身の7人が集まり、それぞれの現場での報告と、熱い議論がかわされました。

区立の児童館に勤務した後、現在学童クラブに勤務する女性(62H)からは、児童館と学童保育における現状について話がありました。公立中学校の主幹教諭を務める男性(60E)からは、中学校における学級経営と授業における課題などが話題になりました。

静岡県から駆けつけた女性(59H)は、助産師を経て、現在スクールカウンセラーとして小中あわせて4校をまわる日々を過ごしているとのこと。その中で経験したことを報告してくださいました。

通信制高校に勤める女性(94E)からは、発達障害、学習障害を抱える子どもたちとの日常のかかわりについて話がありました。

保育園経営に携わる男性(69H)からは、社会福祉法人として、限られた人件費の中、いかに若い人たちを育てるのか、そうした運営面での葛藤が話されました。

児童クラブに勤めた後、現在は学童保育の支援員を務める女性(61H)からは、保護者が抱える問題や、学童に携わる側の問題について話がありました。

呼びかけ人の菅間さんは、現在私立高等学校に勤める傍ら、教科書の出版などにもかかわる日々とのこと。実践している授業を再現しながらの報告をしてくださいました。

梅原先生からは、学習指導要領改訂についての問題提起がなされ、それについては特に熱い議論が交わされました。

幅広い年代の和光大学の卒業生が、梅原先生を囲み、教育現場で感じ、考えていることをざっくばらんに話し、共感し、また議論しあう時間は、まるで学生時代のゼミを思い出すような瞬間でもありました。



同窓会会員の活動は、他にも同窓会HPで紹介しています。劇作家・演出家 前田司郎さん(96L) 庶民文化研究家 町田忍さん(44A) 代官山蔦屋書店文学コンシェルジュ 真室道子さん(54H) (株)アートアベニュー 藤澤雅義さん(57A) ほか、ぜひご覧ください。

同窓会役員募集中!

○幹事

同窓会の事業の企画&運営、月1回程度の会議(和光大学内)

○評議員

年1回、同窓会の活動を点検し、評価、提言を行う

○広報担当者

HPの運営(企画、更新作業等)、会報の企画&編集

○会計監査

年1回同窓会会計の監査

●希望者、ご質問などは、

Eメール dousoukai@wako.ac.jp

でお待ちしています。

あなたのお住まいの地域の卒業生と親交を深めたり、同期会を開いてみませんか? 同窓会がお手伝いします! 事務局までご相談ください!

卒業生、地元で集合!



～和光大学卒業生 47 都道府県別分布データ～ (人数)

※同窓会報を送付している方の住所を基に算出しています。

上海大学と和光大学の交流について

佐治俊彦

和光大学に一貫して一番欠けているのは、国際性・国際交流的志向ではないかと思っている。ひと頃は留学生も特に中国から集まり、聴講生・研究生に至っては1年に百人も殺到したことがあったが、これは学費の安さとハードルの低さが口コミで伝わったからで、自主規制を強めるとあっという間に潮は引いた。

そんな和光でも、上海大学との交流は、手前味噌を承知で言えば、画期的取組みであった。会報編集部から頼まれたので、上海大学との交流をざっと振り返ってみることにした。定年後の整理がまったく進まず、記憶だけで書くので、思い違いはご容赦を。

確か2001年、三橋学長が誕生し、私が企画室代表になった直後のことだったと思うが、89Lの王礼質君という中国人の卒業生が大学を訪ねてきた。専攻科まで進んで長い付き合いをした学生、と言っても私と歳は5歳しか違わない。上海大学で日本語を教えていることは知っていたが、彼が自分たちの学生を1年間和光大学で勉強させたいと言ってきたのである。学長に相談すると、是非進めろということなので、数回上海を往復することになった。詰めは入学資格、学費、宿舍、成績評価、受講可能科目などだったが、先方の是非一日も早く（実は上海大学は同様の制度を愛媛の女子大と始めていたのだが、学生たちの東京という要望が強かったようだ）という気持ちが強く、ほぼこちらの希望通りに交渉は進捗した。一年掛けて翌2002年12月、上海で三橋学長と上海大学国際工商与管理学院長との間で協定書調印式が行われた。

2003年4月、第1期生がやってきた。総勢13名、元気な学生たちだった。彼らはこの学院（=学部）の公共管理コースの日本語班の3年生で、約2年日本語を勉強してきている。日本語能力検定1級取得済み、或いは挑戦中と



佐治先生を囲んで

というのが入学資格だったが、1期生は特に優秀で、ほんと胸をなで下ろしたものである。以後04年9名、05年18名、06年23名、07年18名、08.年7名、09年9名、10年7名と8年総計94名が特別聴講学生として和光大学で勉強した。彼らは帰国後半年で上海大学を卒業するが、殆どが上海の日系企業に就職した。私の上海出張ついでに卒業生を集めて游和会（和光大学に游学した者の会の意）というものを組織して、帰国後も時々交流を続けた。

毎年12月に上海に出掛け翌年4月に来る学生を集めて説明会をやり面接もやるというのが私のルーティンとなったが、一番大変だったのは宿舍の確保で、近隣のアパートを借りるのだが、これは学生生活課（当時）の職員が散々苦労した。学習指導は私のゼミに出席するのを義務とし、日本語の水谷先生がフルで支援して下さった。バイトは最低限にと言ったが当時は経済格差も大きかったので、かなりバイトに追われる学生もいた。アパートで痴漢被害にあった、バイト先で客に殴られた等々、その度に警察や入管に行ったりもした。私には辛くも楽しい交流だったが、突然派遣中止となったのは学部学科の改組のせいで、日本語班が廃止されたため、日中関係の冷却化もその背景にあったろう。

一方通行では交流とは言えない。これも三橋学長の要望で、2005年頃から上海大学の国際交流学院との間で協定を結んで、和光の学生の夏休み短期語学留学のシステムも開始した。これは最大4名、多くは1, 2名だが、細々ではあるが今も続いている。一人でも希望者がいれば出国と最初の1週間は私か加藤先生が引率し食事の取り方や地下鉄の乗り方、町の歩き方などを教えた。いやはや楽しい交流体験でした。

※佐治俊彦先生は2016年3月末を持って和光大学を定年退職されました。2月20日に行われた最終講義には、かつての留学生がたくさん集まり、笑顔で旧交を温めていました。



佐治先生最終講義

◆現役生インタビュー◆

和光大学情報保障団

入学登録式の会場には大型スクリーンが設置され、学長や来賓の挨拶がほぼ同時に表示されていました。そして、2階席には、ダークスーツに身を固め、「和光大学情報保障団」と書かれたタスキをかけた集団が…。

感じたことをすべてを
伝えたい。



出席者…和光大学サークル「情報保障団」

- 加本さん（表現学部4年）
- 田中さん（表現学部4年）
- 東浦さん（表現学部2年）
- 渡辺さん（表現学部4年）
- 和田さん（現代人間学部4年）
- 同窓会…小泉千津子（41H幹事）
- 柳沢 泰子（54H事務局）

2016年4月5日

- サークルの成り立ち／1980年代
- 部員数／現在7名
- 活動内容
 - ・入学登録式での聴覚障がい者のサポート
 - ・オリエンテーションでのノートテイク
 - ・大学が募集するノートテイクや対面朗読者への対応など

●視覚、聴覚…さまざまな障がいを持つ学生のために

Q なんだか堅い名称だけれど、サークルですよ。サークルの歴史と、活動内容を教えてください。

A 2006年頃からしか記録がないので、いつ頃からこのサークルがあるのかは、よくわかりません…。

現在団員は7名です。活動は、入学登録式と、その後のオリエンテーション

ン期間に、障がいのある学生のサポートをするのが主な活動です。入学登録式では、大学の協力を得て、学長の挨拶などを同時進行的にパソコンで入力し、大型スクリーンに表示して、聴覚障がい者の、サポートをします。オリエンテーションではノートテイクをします。その他団員は、団の活動とは別に、車いすを押ししたり、視覚障がいの方に付き添うなど、積極的に障がいのあ

る学生と関わっています。大学が創立当初から行っている聴覚障がい者のためのノートテイクや、視覚障がい者のための対面朗読者の募集にも積極的に応じています。団では、ノートテイクの技量向上のための、研修等も随時やっています。

Q どうしてこのサークルに入ろうと思ったのですか？

A 幼稚園教諭になるための勉強をし

ていますが、幼稚園の現場で障がいのある子どもたちに接することもあるだろうから、障がいのある人たちと関わって、少しでも理解できればと思っています…。

A 友達に誘われて…。

A 聴覚障がい者をサポートするノートテイクに興味があったので。

A 学生支援課が募集するノートテイクは謝礼があるので、それが魅力です…。

A 人手不足だからと誘われて、断りにくかった…。

A 手話に興味があったので…。

●スキルを磨いて、こだわりのノートテイクをしたい！

Q 活動する中で楽しいこと、嬉しいことは？

A ノートテイクは二人一組でやるのですが、先生が話した内容だけではなく、先生のキャラまで伝えられたと分かった時は、やったー！という感じでも嬉しく、充実感があります。

Q 逆にたいへんだったり、苦労することは？

A 入学登録式には、教職員の方々の協力の下、事前に原稿をいただいで準備しています。原稿以外のアドリブの場合はその場で入力し、対応できるように努力しています。理想は、原稿アドリブに関係なく、全て入力することで、理想に限りなく近づけるように、アドリブ部分はその場で入力して、が



んばっているのに、先生方にまで、事前の原稿を流しているだけでしょう？と言われるのはとてもショックです。もっとこつこつという作業を理解してほしいです！

Q 団の活動と学生生活や、学び、社会との関係、将来のこと、また、障がいのある人と関わることについては、どんなことを感じますか？

A パソコンの入力技術を磨いて1分間に300文字入力できるノートタイカーのプロになりたいと思っています。**A** メンバーがもっと増えれば良いと思います。

A 高校の教師を目指していますが、ここでの経験を活かせれば良いと思っています。

A 障がいのある学生を特別だと思ったことはありません。障がいのない学生と全く同じに考えています。

「情報保障団」のみなさんに
心からエールを送ります。

2016年度の入学登録式当日、午前と午後に分かれている登録式に、ずっぱりだったメンバーに登録式終了後集まってもらいました。疲れているにもかかわらず、終始、謙虚で物静かな雰囲気でした。

入団理由を聞いた時には、みんな優しいんだなと思いました。話し手のキャラクターまで伝えるノートタイクという話には驚かされました。内容を伝えるのが精いっぱいというか、内容が伝われば十分という世界で、情報の質にまで、こだわるのはなかなかできないことです。優しいだけではない、とてもしっかり頼もしい面を持っていました。

障がい者にとって、基本的な人権に関わる大切な問題である「情報保障」は、地味な作業の連続ですが、それをものともせず、ごく普通のこととして「保障」しているメンバーの姿はとても爽やかでした。開学当初から、当たり前のごとして、障がい者を受け入れてきた和光大学の精神がきちんと受け継がれていることが分かったのも嬉しかったです。

すでに退職した大学職員の方に、「情報保障団」というサークルについて聞いてみたところ、1980年代から存在しているとのことでした。

「和光大学情報保障団」の皆さん、どうもありがとうございました。

「情報保障団」での経験を活かして納得できる人生を精いっぱい歩んで行ってください。(同窓会)

2015年度修了証書授与・2016年度入学登録

3月18日、2015年度の修了証書交付が行われました。

当日は快晴に恵まれ、卒業生たちはこれからの人生に向けて和光大学から出発しました。

何人かの卒業生にインタビューしましたが、みなさんゼミやサークルに打ち込んだという感想を述べていました。

中には和光高校時代から中国語を学んできたとか、和光大学草創期の学生自治を研究テーマに和光大学大学院でさらに学びを深めるといふ卒業生もいました。

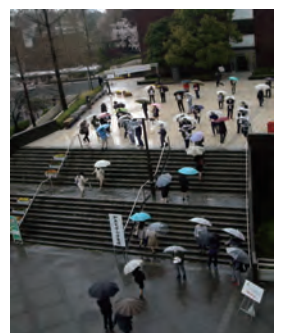


修了証書授与の後は恒例の卒業パーティーが、体育館「パレストラ」で開催されました。伊東達夫学長による乾杯の発声で、卒業生の皆さんは学生時代の思い出を楽しく語り合っていました。

同窓会幹事 吉村景理 (52L)



2016年度入学登録式にて



同窓会の活動 2015.9～2016.8

～この1年の同窓会の活動をご報告します～

和光大学同窓会 第4回総会開催

2015年11月1日(日)、
学内にて開催



挨拶する打越会長



総会風景



伊東学長はじめ、大学事務局の方々も参加しました

学生研究助成金授受

2015年11月1日(日)
第4回総会会場にて



助成金受け渡し

和光大学創立50周年記念式典・ ホームカミングデー2015に参加しました。



創立50周年記念式典。挨拶する古関彰一和光学園理事長



梅根悟初代学長のご子息
梅根要さん

教職支援講座開催

2015年9月24日(木) 5限目
2016年5月25日(水)～27日(金)
12:30～13:00



大沢清さん(講師)



挨拶する伊東学長

ホームカミングデー懇親会では、
幹事が司会を務めました



ホームカミングデー懇親会



佐藤洋さん(講師)

第2回「おかがみ」

2015年10月25日(日)～11月3日(火)
和光大学パレストラにて開催



出展者と実行委員



乾杯!

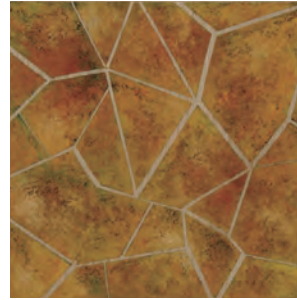
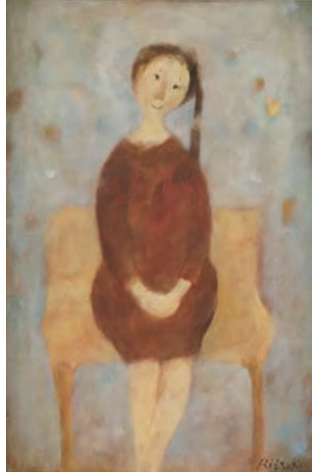


現役生も出展



梅根要さん(中央)と

「おかがみ」vol.2 は現役生も出展。平面、立体、多彩な作品



和光大学大学祭

2016年11/5(土)～6(日)

どうぞご参加ください！

和光大学同窓会 第5回総会を開催します

2016年11/5(土)

13:00～ 和光大学A棟4階第2会議室

●議案書は同窓会HPでご覧になれます。
 印刷したものをご希望の方は、事務局にご請求ください。

☎・fax 044-949-0008 または、
 Eメール：dousoukai@wako.ac.jp

和光大学同窓会作品展 第3回「おかがみ」

2016年11/27(日)～12/3(土)
 和光大学内パレストラ4階展示室

オープニングパーティ 11/27(日)
 15:00～17:00

同窓会費納入のお願い

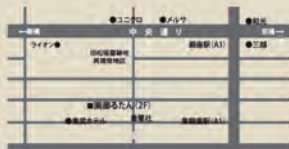
永年会費¥20,000を、同封の振込用紙にて納入いただきますよう、お願い申し上げます。会報発行費用はじめ、同窓会の活動に関わる費用は、会員の皆様が納めて下さった会費で賄われています。永年会費ですので、一度納めていただければ結構です。分割納入も歓迎しています。どうぞご協力をお願いいたします。

卒業生の皆さまへ

募金のお願い

現在和光大学に通う学生の家計急変による中途退学が後を絶ちません。親の失業、介護離職など、かつてはあまり考えられなかったような理由で、最終学年の学費が払えなくなっています。そうした現役生の力に少しでもなればと思い、同窓会として基金を立ち上げました。この学生救済募金へも、ぜひ、お気持ちをお寄せ下さい。

画廊「るたん」



中島 三枝子 (41A)
 〒104-0061
 東京都中央区銀座 6-13-7
 新保ビル2F
 Tel. Fax. 03-3541-0522

• e-mail : le-temps.ginza@yk2.so-net.ne.jp
 • http://www.galleries.jp/town/tokyo/rutan/now.html

画廊「るたん」卒業生催し物案内

◆第17回「接点」 2017/3/13(月)～2017/3/18(土)

編集後記

地震や、豪雨による土砂災害が相次ぎました。被災された会員の皆様、その後、生活は落ち着かれたでしょうか？

和光大学同窓会会報第3号をお届けします。和光大学も半世紀を数え、卒業生が集う機会が増えつつあります。サークルなどは、特に呼びかけや、宣伝をしなくても、40～50人は集まるのを見ていると、濃密な学生時代に裏打ちされた関係やつながりを実感します。そして、そういうつながりに同窓会は大いに励まされています。こんな時代が来るとは思ってもいなかった、気候も社会も、不透明で重苦しいこの時代に、得難い貴重なものを私たちは和光大学で得たのです。

柳沢 泰子 (54H)

和光大学同窓会事務局

〒195-8585 町田市金井町 2160 和光大学内
 Tel & Fax : 044-949-0008
 Eメール : dousoukai@wako.ac.jp
 同窓会事務局 / 和光大学 A 棟 4 階 412 号室
 開室日 / 月曜日午前 11 時～午後 3 時

●同窓会 HP

<http://www.wako-daigaku-dousoukai.info/>

※和光大学同窓会報 Vol.3 は、同窓会 HP でもご覧になれます。

●和光大学 HP

<http://www.wako.ac.jp/>